

パウチパック入り炭酸ゼリー飲料及び 希少糖入りサイダーの開発

デザイン、製造環境、機械制御

製品の品質が向上、 量産も可能に 新商品開発を継続し取引先拡大へ



ジャム製造契機に商品幅広げる
小ロット製造、有機JAS取得を強みに

【経営理念】

- 一、私達は安全で清潔そして健康的な食品を創造します。
- 一、私達は私達が創造する食品の販売を通じて地域社会に貢献します。
- 一、私達は地域社会に貢献する事によって社員のより良い生活を実現します。

さんべ食品工業株式会社は、1932年、おいしい地下水を生かして瓶詰め of 清涼飲料水の製造を始め老舗。冬には売り上げが落ちるため55年ごろからは、こんにやくを製造し地元のスーパーで販売するなど、順調に売り上げを伸ばしていった。

その後、自動販売機の普及で、缶飲料やペットボトル飲料が主流となり、瓶詰め飲料の売り上げは伸び悩んだ。次の一手を模索していると、東京の企業組合ワークス・コレクティブ(労働者による協同組合)から「地元の果物でジャムを作ってみないか」と声がかかった。

新しい分野だったが、果物の扱い方などジャムの製法や、OEM(自社製品を相手先ブランドで販売すること)の基本なども教わることでできた。地元・大田のブルーベリーを中心にジャムを製造し、2004年に販売を開始すると、他の地域からも「ジャムを作って」と依頼が来るように。製造過程で生まれる余分な果汁からシロップを作ったり、バラの香りの炭酸飲料に挑戦したりと商品の幅を広げた。

さらに、地元産のゆず果汁を生かしたサイダーが評判を呼び、大手航空会社の機内販売で大人気に。地方の名産を使った「地サイダー」のブームもあり、飲料水でも各地から製造依頼を受けるようになった。

高い品質に加えて、小ロットで製作できることや、有機JASを取得していることなどが強みになり、現在でも多くのOEM商品を手がけている。自社ブランド「スイートママ」では、県産の梅やしそ、イチゴなどを使った炭酸飲料やジャムなどが好評だ。



高品質商品を安定的に製造
作業効率も大幅向上

ものづくり補助事業では、スパウト(注ぎ口)付パウチパックの量産ができるように、パックの自動生産機とチラー(冷水機)、インクジェットプリンターを導入した。

これまでもスパウト付パウチパックは扱っていたが、手作業のため大量生産ができなかった。自動生産機は、最高で1時間に600個を充填するなど、熟練者の手作業の三倍の早さで、コスト減につながった。

また、炭酸飲料の製造では、水を十分に冷やすと多くの炭素ガスが水に溶け込むため、チラーを導入。原料水

代表取締役
勝部 邦彦

インクジェットプリンター、チラー(冷水機)、スパウト付パウチパック自動生産機



1



2



3

- 1 スパウト付パウチパック自動生産機(左)と、インクジェットプリンター
- 2 低温の原料水を得るために導入したチラー
- 3 出来上がった製品一例

を5～10度程度に保ち、安定して高品質の炭酸飲料を製造できるようになった。

インクジェットプリンターは、パウチパックなどにくっきりと賞味期限などを印字するのに役立ち、商品管理も容易になった。

これらの設備で、体に優しい希少糖を使った飲料水や飲むゼリー、調味料なども開発する予定だ。



天然素材にこだわり
原料生産者と一緒に商品開発

数多くの依頼の中には、味や香りが思い通りにならず難航したり、天然素材に特有の沈殿などの現象を、依頼先に納得してもらうのに苦労することもある。それでも「できるだけ天然素材を使い、保存料などは使いたくない」とのこだわりがある。そして、原料の生産者と一緒に商品開発をする姿勢を大切にしている。素材を育てる人の思いを生かした製法が、よい製品につながるからだ。

今後は自社ブランドの商品も増やしていく。「価格競争に走るのではなく、切り口を工夫し、付加価値の高いものを生み出したい。そして地域で大切にされる会社でありたい」との思いを強くしている。

Company Data

さんべ食品工業(株)



大田市大田町にある本社

代表者名：勝部 邦彦
設立年月日：昭和7年5月
資本金：19,550千円
従業員数：8名
業種：食料品製造業
住所：〒694-0064
島根県大田市大田町大田イ403番地5
電話：0854-82-0863
FAX：0854-82-6686
URL：<http://www.sanbe-sweet.com/>
メール：kkatube@iwami.or.jp